

## 旭市過疎地域持続的発展計画(素案)に関する意見と市の考え方

- 1 意見募集の期間 令和7年12月1日(月)～令和7年12月15日(月)
- 2 意見提出者数 5人(意見数 10件)
- 3 意見の取り扱い
  - ①ご意見を踏まえて、案の修正を検討するもの
  - ②今後の参考とするもの
  - ③ご意見にお答えします

No.	意 見	市としての考え方	意見の 取扱い
1	補助金等 ・干潟地域限定で、住んだら減税、子供に補助金。	本計画(素案)の12ページ記載のとおり、本市では定住促進奨励金として新たに住宅を取得した際に、150万円を上限に支援しています。ご意見のような地域を限定しての減税や補助金については、公平性や継続的な財源確保などの課題もあるため、実施には慎重な検討が必要と考えます。	③
2	農村留学 ・寮をつくり、1年目は寮に住み、2年目からは地域の家庭に入って住み込む。卒業後も第二の故郷として戻って来て、住んでくれる方も。	転入者への支援として、本計画(素案)の12ページ記載のとおり、地域おこし協力隊(農水産業支援)として、市内の農水産業者のもとで研修を行う隊員を募集しています。さらに、市内農家の元で雇用就農される場合、家賃の一部を補助しています。	③

No.	意 見	市としての考え方	意見の 取扱い
3	<p>20代～40代の子育て世代定住促進案</p> <p>・干潟地域に住んで感じる問題点は、現在の環境では定住に魅力を見出せないと感じている。子育て世代としては新たに居住する、転居するハードルが高い。そして、アパート等の賃貸居住がほぼ無い、また分譲住宅が無い。香取郡多古町をモデルケースに転居、定住に魅力を見出せる計画を立ててはどうかと思う。多古町ではこの数年で分譲住宅周辺にバスターミナル、大型スーパー、小学校、こども園、駐在所等近隣に建設。新たな住居を構えるにはとても魅力的と感じる。干潟地域でも広域農道沿いはナリタヤ等の大型スーパーがあり、また広域農道は交通量も多い。市と不動産会社がタックを組み広域農道沿いに分譲住宅区域を建設してはどうであろうか。住居が促されれば人口も増加し周辺の飲食店も増やす事が出来る。ナリタヤ周辺は多古町にも隣接し、今後開通される圏央道へのアクセスもしやすい地域であるため居住メリットは大きくなると思う。</p>	<p>定住の課題として、住まいの選択肢や生活利便施設へのアクセスは重要な視点であります。本市では、各種の移住・定住施策を実施しておりますが、引き続き近隣自治体の事例も参考にしながら、本市の地域特性に応じた施策の在り方を検討してまいります。</p>	③
4	<p>雇用</p> <p>・農業や工業等のみの雇用では、若者は、地域に残らないと思います。</p>	<p>若者が多様な働き方を選択できる環境づくりを進めるため、企業誘致奨励措置や空き店舗活用事業補助金、創業支援などの施策を通じて、引き続き幅広い業種の誘致や新たな事業の創出を支援してまいります。</p>	③
5	<p>廃校</p> <p>・地域のコミュニティの場となるような活用をすることで、雇用の促進にもつながると思います。 (例:東庄町石出小学校跡地や、香取市府馬小学校跡地、多古町十余三小学校跡地等)</p>	<p>学校再編により使用しなくなった学校施設については、利活用の考え方や検討の進め方を整理した方針に基づき、地域の意向も踏まえながら活用の可能性を検討していくこととしております。市としては、関係課と情報を共有するとともに、今後の取り組みの参考とさせていただきます。</p>	②

No.	意 見	市としての考え方	意見の 取扱い
6	<p>教育</p> <p>・プールは、民間(?)を利用するとありますが、飯岡地区の市営プールでしょうか。学校の近所にあった方が、教職員や児童生徒にとっては、ありがたいです。</p>	<p>干潟地域の小学校再編の関係会議において、水泳の授業について協議をいただいており、最寄りの民間プールに協力を得る方針としており、児童はバスで送迎を行う予定です。屋内温水プールとなるので、天候の影響を受けず、安定した授業回数の確保や教職員の負担軽減の効果があると考えております。</p>	③
7	<p>児童福祉</p> <p>・保育施設の統合について、地域の中央に設置を検討するとありますが、小学校との連携を考慮したとき、小学校の近くの西地区に設置した方が、保育や教育の効率や、保護者負担、教職員負担が減ります。</p> <p>また、民間(私立)の保育園が、中和地区にありますので、あえて中和地区に統合保育所を設置する必要はないと強く思います。【例：東庄町や多古町、匠瑤市、香取市(佐原地区・小見川地区)、横芝光町等は、小学校の近くに保育施設があり、連携がとりやすかったです(勤務経験あり)】</p>	<p>立地について、地域の中央が望ましいと考えていますが、ご意見のような小学校との連携も検討課題の一つとして捉え、今後の保育施設の統合に取り組んでまいります。</p>	②
8	<p>公共交通</p> <p>・コミュニティバスや、路線バスなど、利用者がいないとありますが、本数が少なく、停車場までも遠方であると、利用しにくいです。また、路線バスは、運賃が高額であることも、利用を遠ざけていると思います。</p>	<p>全国的な運転手不足や労働時間改善など、バス事業を取り巻く環境は、非常に厳しい状況にありますが、市としましては、利用者数だけでなく、運行ルート、本数・停留所配置、費用負担(運賃)なども踏まえ、引き続き交通事業者と連携し市民の利便性向上に努めてまいります。</p>	②

No.	意 見	市としての考え方	意見の 取扱い
9	<p>農業大学校</p> <p>・旭市の農業産出額は年間559億円で、全国5位、米、畑作、豚、花などを中心に生産されている。反面、後継者不足もあり、検討課題でもある。東金市にも農業大学校はあるが、廃校になった校舎を利用してみてはどうか。可能なら寄宿。人材確保、田、畑の確保など課題は多いが、「旭」で学び「旭」に住んで、その良さを体感してもらい発信する。目指すは「旭ブランド」である。</p>	<p>後継者対策は市の農水産業振興にとって重要な問題ですので、引き続き就農支援に力をいれるとともに、県や農業団体、農業委員会などと連携を強化し、対策してまいります。</p> <p>なお、学校再編により使用しなくなった学校施設については、利活用の考え方や検討の進め方を整理した方針に基づき、地域の意向も踏まえながら活用の可能性を検討していくこととしております。市としましては、関係課と情報を共有するとともに、今後の取り組みの参考とさせていただきます。</p>	②
10	<p>生態学の観点で将来を見据えて</p> <p>・谷津田の多古で桜宮自然公園内で化学肥料、農薬、除草剤を使わないコメ作りを続けてきた。環境にやさしい農法である。メダカが泳ぐ水田で生き物の存在が可能になる。幼児教育と同時に旭という平坦な環境の中で過疎地という問題だけでなく南からやってくるサンバと北から飛来する白鳥あるいはガン、カモなどが生息できる環境づくりが可能ではないかと期待する。農業という観点よりも生態学の観点でこの地域の将来を見据えた方針が立案されることを期待する。</p> <p>※意見を要約しています。</p>	<p>農業と自然環境を生かした取り組みは、地域の魅力度向上につながる重要な視点であります。市としましては、農業振興、環境保全、教育等の関係課と情報を共有するとともに、今後の取り組みの参考とさせていただきます。</p>	②